

# 環境目標と実績

東京メトログループでは、長期環境戦略「みんなでECO.」において『安全で質の高い鉄道サービスの提供』を着実に推進する一方で、省エネルギー施策に積極的に取り組むことにより、

2020年度の鉄道事業における総エネルギー使用量を2009年度実績より増加させないことを目標とした上で、下記のとおり、中期環境目標を設定しています。

## 中期環境目標(2013年度～2015年度)に対する2014年度実績

### ▶中期環境目標(2013年度～2015年度)

実施項目	目標
車両走行キロ当たり電車で電力使用量の低減	2015年度に2009年度比で <b>1%低減</b>
廃棄物のリサイクル推進	一般廃棄物・産業廃棄物（建設副産物を除く）のリサイクル率 <b>90%以上達成</b>
建設副産物のリサイクル推進	建設発生土、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊のリサイクル率 <b>100%達成</b>
グリーン購入の推進	実施率 <b>97.5%以上</b> の維持
コピー用紙使用量の削減	2015年度のコピー用紙使用量を2010年度～2012年度平均から <b>3%削減</b>

### ▶中期環境目標(2013年度～2015年度)の主な取組みと2014年度実績

進捗状況：◎は目標を大きく達成、○は達成、×は未達成

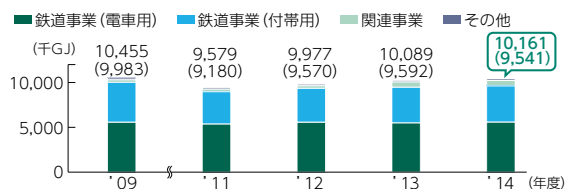
「みんなでECO.」 3つのテーマ	実施項目	進捗 状況	中期環境目標に対する 2014年度の実績	2014年度の実績及び 主要実施項目
東京メトロ 自らのエコ化	地球温暖化防止			
	鉄道事業の省エネ化	環境配慮型車両の導入	◎	車両走行キロ当たり電車で電力使用量の低減 <b>1.95kWh/C・km</b> → 2009年度比2.5%減
		駅構内照明や車内照明 駅サインシステムのLED化	◎	● 新造車両9編成54両を導入、既存車両7編成62両の制御装置を更新。うち2編成16両には永久磁石同期モータ(PMSM)を導入
	関連事業の省エネ化	広告用看板のLED化	○	● 935面の広告用看板をLED内照式のものに更新
	事務オフィスの省エネ化	省エネ活動の推進 ◆	◎	● 照明機器や空調の適正管理などの省エネ活動を継続
	再生可能エネルギーの活用	太陽光発電システムの導入	◎	● 東西線西葛西～西船橋駅間の地上駅全駅(8駅)を含む計10駅に太陽光発電システムを導入
	廃棄物の削減・資源消費の削減			
	環境にやさしい物品の使用	グリーン購入の推進	◎	● 事務用品などの購入時に環境にやさしい物品を購入
	資源の効率的な使用	コピー用紙の使用量削減 ◆	×	2014年度目標値比 <b>8.8%増加</b>
		車両自動洗浄機での 再利用水の活用	○	● 検車区・工場の車両自動洗浄機において、51.4%を再利用水に活用
	リサイクル、リユースの推進	廃棄物管理の推進 ◆	◎	リサイクル率 <b>91.4%</b>
		建設副産物のリサイクル	◎	リサイクル率 <b>100%</b>
	騒音・振動の低減			
	騒音・振動の低減	防振まくらぎの敷設促進	○	● 防振まくらぎを978m敷設
東京メトロを 使ってエコ	公共交通の利用促進			
	円滑な移動の実現	エレベーター エスカレーター 多機能トイレ整備の推進 PASMO専用改札機の導入	◎	● エレベーター4駅、エスカレーター3駅、多機能トイレ2駅の駅施設にバリアフリー化を推進、ICカード需要の拡大に伴いPASMO専用改札機(36通路)を導入
	環境負荷の少ない地下鉄の利用促進	自然や街並みを体験できる イベントの開催	◎	● 沿線ウォーキング・スタンプラリーをはじめとする「鉄道でエコ」型イベントを実施
	情報発信ツールを活用した適時適切な情報の提供		◎	● 情報発信ツールの活用により、駅や車内において適時適切な情報を提供するほか、自動旅客案内装置の整備推進、駅構内無線LANを活用した情報配信サービスを実施
	沿線地域とエコ			
3つのテーマ 共通	地域連携による環境保全			
	沿線地域と連携した環境保全活動の実施		◎	● 沿線の皆様とのコミュニケーションを通じて、沿線地域の環境負荷低減に向けた取組みを推進
	環境関連法規制の遵守			
	環境関連法規制の遵守 ◆		◎	● 省エネ法や東京都環境確保条例などの環境関連法規制に適切に対応
	環境意識の啓発			
3つのテーマ 共通	環境教育の実施 ◆		◎	● 社員への環境教育を継続
	環境保全活動に関する情報発信		◎	● 「みんなでECO.」の展開や社会環境報告書の発行などにより、東京メトロの環境への取組みをPR

◆マークの目標については、東京メトログループ各社においても共通目標を設定しています。

## エネルギー使用量

事業活動に伴うエネルギー使用量は、右図のとおりです。鉄道事業による使用量が全体の約93%を占めています。

2014年度は、鉄道サービスの拡充に伴い、10,161千GJとなり、2013年度に比べ約1%増加しましたが、基準年の2009年度に比べると約2.9%の低減となりました。



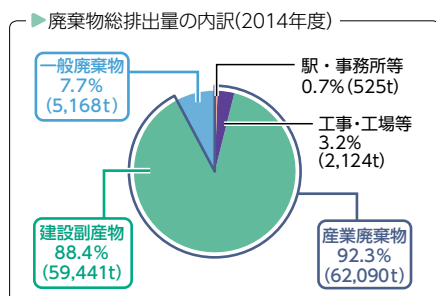
\* ( )内の数値は鉄道事業(電車用)と鉄道事業(付帯用)のエネルギー使用量を加えたものです。

## 廃棄物排出・リサイクル状況

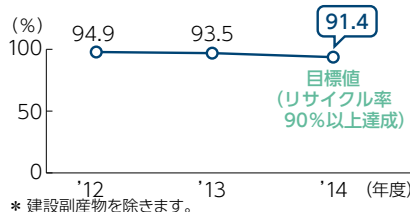
東京メトロから排出される廃棄物は、主に駅や事務所から排出されるものと、工事で排出されるものとで構成されています。このうち、駅の大規模改良などの工事や工場などから出る産業廃棄物が全体の92.3%を占め、産業廃棄物の中でも建設副産物が全体の88.4%を占めました。

物が全体の88.4%となりました。

2014年度の一般廃棄物・産業廃棄物のリサイクル率は91.4%、建設副産物のリサイクル率は100%となり、中期環境目標にて設定した目標値を達成しました。

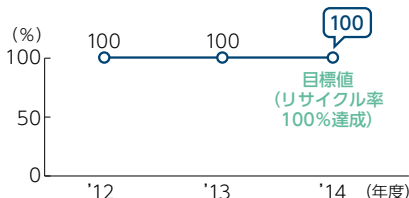


▶一般廃棄物・産業廃棄物\*のリサイクル率推移



\* 建設副産物を除きます。

▶建設副産物リサイクル率推移



## グループ各社での環境マネジメント

東京メトログループ各社で環境マネジメントシステムを運用しており、「省エネ活動の推進」「改正省エネ法等の法規制への適切な対応」「紙使用量の削減」「廃棄物管理の推進」「環境教育の実施」の計5項目をグループ共通の環境目標に設定し、環境保全活動に取り組んでいます。上記に加え、環境マネジメントシステムをグループ全体でより一層定着させるため、2013

年度からグループ会社ごとに独自の環境目標を設定しています。

また、グループ各社間での情報共有や連携の強化、環境マネジメントに関するレベルアップのために、グループ環境委員会を定期的に行い、グループ全体で環境マネジメントのさらなる発展に向け積極的に取り組んでいます。

▶独自環境目標一覧

会社名	独自環境目標	主な取り組み内容
メトロセルビス	海の森植樹ボランティアへの協力	毎年秋に開催される東京都主催 海の森植樹ボランティアへ参加する。
メトロコマース	グリーン購入の推進	環境への負荷ができるだけ少ない物品を選んで購入する。
メトロ車両	紙使用量実績の周知	紙の使用量を減らすため、社内への紙使用量の周知を行う。
メトロレールファシリティーズ	電気使用量の削減	事業所(6箇所)における電気使用量を前年度実績より1%削減する。
メトロ開発	電気使用量の削減	本社と管理施設における電気使用量を前年度実績より1%削減する。
地下鉄メインテナンス	グリーン購入の推進	環境への負荷ができるだけ少ない物品を選んで購入する。
地下鉄ビルディング	グリーン購入の推進	環境への負荷ができるだけ少ない物品を選んで購入する。
メトロフードサービス	生ゴミ処理機の運用	生ゴミ処理機を車両基地の計4箇所に導入し、ゴミのリサイクルを推進する。
メトロプロパティーズ	紙使用量実績の周知	紙の使用量を減らすため、社内への紙使用量の周知を行う。
メトロアドエージェンシー	リサイクル、リユースの推進	本社事務所の全ての一般廃棄物、資源ごみ、産業廃棄物をリサイクルする。
メトロフルール	ペットボトルのキャップ回収	深川体育館にあるペットボトルのキャップを100%回収・リサイクルし活用する。